

# 広報 さとうきび増収

さとうきび単収8ト、取りを目指して！！基本技術の励行で単収向上に努めよう！！

新春の候、さとうきび生産者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。24/25年産さとうきびの集荷も12月13日より始まりました。『集荷状況』、『ハカマ焼による火災防止』、『さとうきびポリマルチ回収処分費用の全額負担』についてまとめておりますのでご一読下さい。

## 『平成24年産さとうきび生産見込みと集荷状況！！』

12月13日より集荷が始まり、12月29日現在の買入甘蔗糖度は平均13.47度と、例年に比べ甘蔗糖度は高い状況となっています。

また、本年度の増産推進日は2月26～28日の3日間となっていますので、その時期を利用して増産に取り組んで頂きますようお願いいたします。

【平成24年産さとうきび生産見込み数量(12月29日現在)】

市町	年期	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	買入糖度 (12/29日現在)
西之表	24年産	841	5,545	46,633	13.46
	23年産	847	5,742	48,638	12.82
	対比(%)	99.3	96.6	95.9	105.0
中種子	24年産	1,442	6,000	86,520	13.49
	23年産	1,461	6,373	93,114	12.66
	対比(%)	98.7	94.1	92.9	106.6
南種子	24年産	506	5,750	29,095	13.42
	23年産	501	5,808	29,097	12.67
	対比(%)	101.0	99.0	100.0	105.9
合計	24年産	2,789	5,817	162,248	13.47
	23年産	2,809	6,082	170,849	12.71
	対比(%)	99.3	95.6	95.0	106.0

※23年産の収穫面積、単収、生産量については最終実績。買入糖度については、12月29日現在の値。



## 『焼かずに活かそう！きびハカマ！！』

種子島のさとうきび生産は、収穫後早期の株出管理とマルチ栽培が基本です。しかし、ハーベスタ収穫が7割を超え、収穫残渣(ハカマ)が残った状態では、株出し管理の障害となるため、その多くは焼却処理されています。このため、ほ場の物理性は悪化し、更に、焼却作業に伴う火災や事故が発生し、問題となっています。そこで、ハカマについては、石灰窒素(20kg/10a以上)とともに畝間へ還元することで、土壌の地力(保肥力)向上が期待されます。

もし、ハカマ焼却処理を行う場合は、下記事項を守り、火災を『絶対に』出さないようにしましょう。火事は多くの方々に迷惑をかけます。火災・事故防止に努めて頂くようお願いいたします。

### 注意点！

- ・ハカマを焼却する時は、周囲に幅3m以上の防火帯を切ってから火をつける。
- ・少人数の日及び風のある日は焼却しない。
- ・消火用具(噴霧器・畑灌水・叩き消し用具等)を事前に準備しておく。
- ・作業服は燃えにくいもの(綿素材等)を着用しましょう。
- ・ハカマ焼きをする際は、必ず消防署へ連絡をしましょう。

## 『さとうきびポリマルチ回収処分費用の全額負担について！！』

ここ2年間の異常低単収を受けて、早期に生産回復を図る必要があります。低単収の要因には、気象条件の他に近年のマルチ被覆率低下も要因の一つとなっています。

よって、生産回復の為に現在農家負担となっている、『さとうきびのポリマルチに限り、その回収処分費用を新光糖業株式会社で全額負担します。』

つきましては、現在のポリ被覆面積約「726ha」を「1,500ha」(新植面積の70%、株出面積の50%)まで被覆率を上げる事を目標に、単収向上に努めて頂きますようお願いいたします。

また、使用済みポリマルチの処理は、法令遵守に努め適正処理を行って下さいますよう御協力下さい。

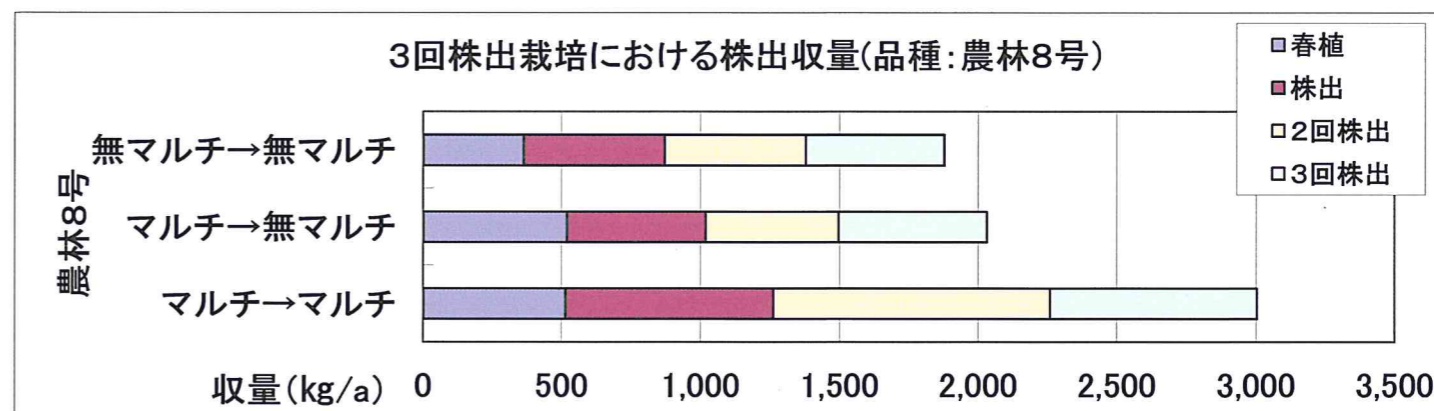
※処理方法等につきましては、次回の広報誌をご覧ください。

## 『適期管理とマルチ被覆徹底！！』

無マルチ栽培では、萌芽が悪く茎数が不足すること等から、低収の要因となります。マルチの効果は、春植より株出栽培で期待されており、マルチの被覆により、3回株出も可能となります。

「NiF8」の場合、無マルチでは収量が年に2割～3割減少となることから、マルチ被覆による費用対効果は高く、資材費や労賃、処分料等のコストは回収できる試算になっています(参考:表1)。

表1. 新植及び株出による収量(品種:農林8号) 参考データ:熊毛支場



①原料代金=約20,000円/tとした場合・・・

マルチ栽培 : 7,000 (kg/10a) × 20,000円 = 140,000円 × 4年作 = 560,000円  
無マルチ栽培 : 4,700 (kg/10a) × 20,000円 = 94,000円 × 4年作 = 376,000円

※4年作で約184,000円の差が出ます。

②10a当りマルチ資材等コスト(回収廃棄代含む) = 約8,000円 × 4年作 = 32,000円

10a当りの生産費(4年作) = 184,000円 - 32,000円 = 152,000円の増益が見込まれます。

※気象予報では今年も平年より寒い予報となっています！！。マルチ被覆により、寒さからさとうきびを守り、発芽・萌芽を促進し、茎数を確保することが、生産安定を図る重要なポイントです。